

内裏北外郭北方の調査 - 第339次

はじめに 個人住宅改築にともなう事前調査である。調査地は奈良市佐紀町2492-3に所在し、内裏北外郭の北方に位置する。また岸本直文の復元によれば、市庭古墳前方部西側の墳丘基底部にあたっている（「市庭古墳の復元」『文化財論叢Ⅱ』同朋舎 1995）。

本調査では、奈良時代における内裏北方の状況、および市庭古墳前方部の推定基底ラインの妥当性を検証することを主目的に発掘調査を実施した。調査区は南北6.5m、東西2.5m。調査面積は16.25m²。調査期間は2001年11月15日から19日である。

基本層序 現地表面から、表土、橙白色粘土ブロック混明茶褐色土（近代の造成盛土）、暗灰色粘質土（耕土）、礫混明灰色粘質土、橙黄色粘土（地山）となる。現地表面は標高74.6m～74.7m。

遺構検出は礫混明灰色粘質土層上面（標高74.2m～74.3m）で行い、最終的に地山面で確認した。なお、標高74.1m～74.2mで地山面に達している。

